郵政博物館
誕生115年記念

悠久の大通信展

だいていしん

通信のあゆみ

2017年4月15日〈土〉－6月25日〈日〉

◎前期 4月15日〈土〉－5月16日〈火〉　◎後期 5月18日〈木〉－6月25日〈日〉 ※一部展示替え有り

◎休館日　5月17日（水）、6月7日（水）
◎主催　郵政博物館　◎後援　日本郵政株式会社

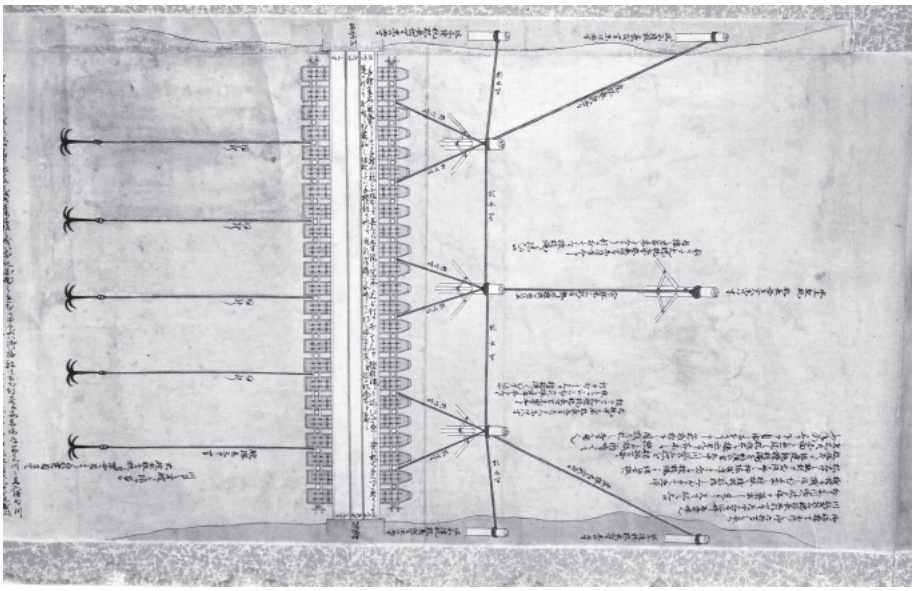
郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN
〒131-8139　墨田区押上1-1-2東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
TEL 03-6240-4311（総合案内）HP http://www.postalmuseum.jp/

開催にあたって

当館は、日本の博物館・美術館の中でも屈指の長い歴史と伝統を誇る博物館で、その起源は、明治 32（1899）年、逓信省内に設置された「参考品室」まで遡ります。その後、明治 35（1902）年 6 月 20 日、「万国郵便連合加盟 25 周年」の記念展覧会の際に初めて「郵便博物館」の名称で収蔵品が一般公開され、公の博物館としての一歩を踏み出しました。今から 115 年も前のことになります。

現在の郵政博物館では、明治の郵便制度創業以降から郵政民営化までの郵便関係資料を中心とした、郵政と通信に関する約 400 点の資料と約 33 万種の世界の切手を常設展示していますが、それは当館収蔵品のほんの一部でしかありません。古代から郵便創業以前までの駅逓資料―東大寺文書や固関木契をはじめ飛脚印や飛脚状、江戸幕府道中奉行所から伝わる「五街道分間延絵図」等、通信や街道に関する資料も多く収蔵しているほか、ペリーが幕府に献上した「エンボッシング・モールス電信機」（重要文化財）等、わが国の電気通信史の黎明を伝える貴重な資料についても収蔵しており、博物館として、これらの貴重資料を次世代に繋いでいくことを使命として様々な活動を行っております。

このたび、当館の誕生 115 年を記念して、これらの古代から江戸時代までの収蔵資料を紹介する「－通信のあゆみ－悠久の大逓信展」（期間：2017 年 4 月 15 日（土）～6 月 25 日（日））を開催する運びとなりました。この機会にどうぞお楽しみください。

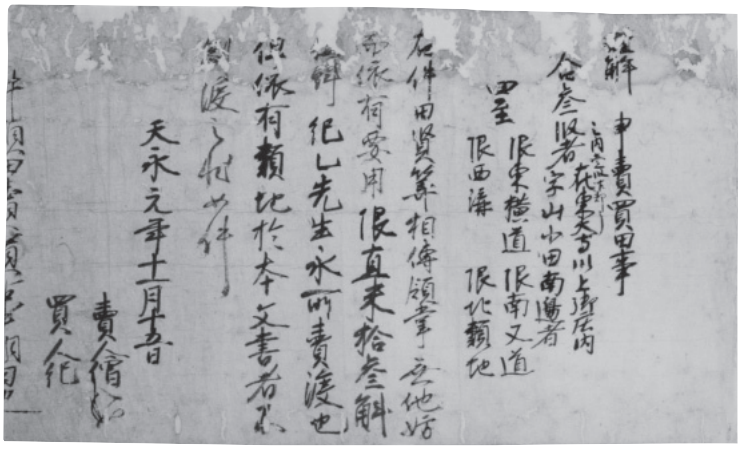


《明治天皇御東行玉川船橋設絵図》（部分）／明治元（1868）年 10 月

固関木契は、古代、都の防備のため置かれた関所において、国の有事（天皇崩御、譲位、内乱等）に関所を封鎖する固関の際、使者である固関使が正当であることの確認に用いられた木製の割符である。

これは、後西天皇が皇太子に譲位の際、古式に倣って作らせ、美濃に贈ったものである。美濃には、古代東山道の関所の一つ、不破の関が置かれていた。

《固関木契（贈　美濃国　駅伝）》
／寛文３（1663）年

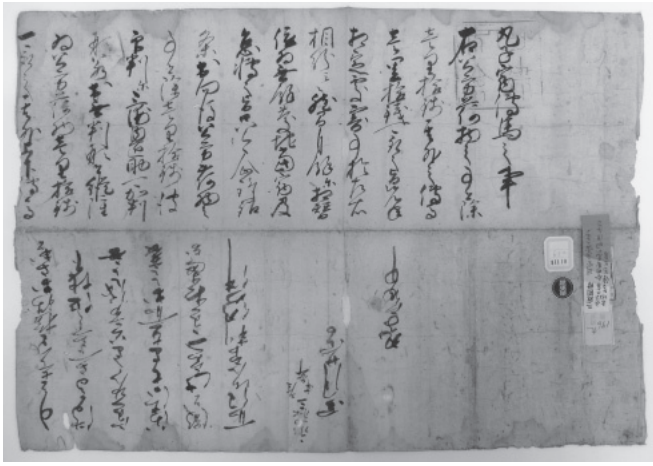


《東大寺文書》／天永元（1110）年

この文書は、東大寺領川上庄に代々土地を所有していた僧賢算が、その所有している川上庄内の字山小田南辺の土地参段を、直米拾参斛斗で紀乙に売り渡した土地の売買契約書（売券）である。川上庄は、大和国添上郡（現在の奈良県奈良市川上町）に属し、東大寺建立当初からの寺領ともいわれており、東大寺にとって重要な寺領荘園であった。

往来軸は、文書を巻くための軸となる題箋付きの棒で題箋軸ともいう。先端の台形状の４面部分（題箋）に巻物の分類が記されており、文書のインデックスとして機能していた。

《往来軸》



今川氏の伝馬制度は、天文20（1551）年頃、三河平定、尾張侵攻の過程で整えられた。これは今川氏の伝馬についての朱印状で、丸子宿に対する伝馬賃銭に関する指示書である。

《丸子宿伝馬之事（今川氏伝馬文書）》
／永禄３年４月24日（1560年５月29日）

江戸の通信と街道

《日光御山内見取絵図控
中禅寺　全》
／寛政12(1800)年
～文化３(1806)年

五街道分間延絵図は、江戸幕府道中奉行所が五街道とその主要な脇街道について調査し、実測の1800分の1の縮尺で制作した彩色絵図で、寛政12（1800）年から文化３（1806）年にかけて完成した。3部作成され、うち1部は将軍に献上され、2部は実務用として道中奉行所に置かれた。

現在は、当館と東京国立博物館に1部ずつ現存し、当館収蔵のものは折本仕立てで92冊あり、道中奉行所より伝わったものといわれている。東京国立博物館所蔵のものは、江戸城内紅葉山文庫に収められていたものと思われ、こちらは80の巻子仕立てとなっており、国の重要文化財に指定されている。

《五街道宿村大概帳》／天保～安政年代（1830～60年）

道中奉行所が五街道とその脇街道の宿駅や街道筋の村々の様子を調査し記録した台帳で、当館では53冊を収蔵している。各宿駅の人口や本陣・旅籠の数、道路の状態など、街道沿いの様子が詳細に調査されている。

「富嶽百景」を模刻彩色したもので、夜明け時、富士山を背に状箱をかついで走る継飛脚（江戸時代の公用の飛脚）の様子が描かれている。

葛飾北斎《冨士百撰　暁の不二（模刻彩色）》

《女手形》／元禄２年７月18日（1689年９月１日）

《鉄砲手形》／天明８年７月21日（1788年８月22日）

江戸周囲の関所では、「入り鉄砲に出女」（江戸に向かう鉄砲と江戸から出る女性）が特に厳しく検問された。図版は、女二人（内一人は尼）が京都六条西本願寺へ参詣し信濃国水内郡柏原村へ返る女手形（左）、大坂加番のための鉄炮四挺往返の鉄砲手形（右）。

《大細見》／文化２（1805）年

文化２(1805)年から幕末まで飛脚問屋京屋弥兵衛が使用していたもの。飛脚問屋の基本台帳で、各地あての書状の料金、宿屋の名前、受け持ちの町名などが記されている。頻繁に使うものなので革表紙になっている。

《飛脚屋印》

飛脚問屋が使用していた印。江戸時代の半ばごろには民間の飛脚問屋ができ、特に江戸、京、大坂の飛脚問屋が中心となり活躍していた。

《飛脚状包紙》

飛脚問屋が取り扱った書状。並便･早便･別仕立など、運送の速さによって料金が異なった。「正六」とは６日間で届くという表示である。また、料金が支払い済みであることを「賃済」という印を押印することによって示した。

平賀源内《エレキテル》（平賀家伝来）
／安永５（1776）年～８（1780）年／重要文化財

平賀源内（1728～80年）は、二度目の長崎遊学時に、和蘭通詞の家で所蔵していた壊れたエレキテルを江戸に持ち帰り、約６年の歳月をかけて安永５（1776）年に摩擦起電機「エレキテル」を数台製作。エレキテルは江戸の大名屋敷などで見世物として、また病気治療を目的として使用された。

ペリー将来《エンボッシング・モールス電信機》
／嘉永７（1854）年、米国製／重要文化財

米国使節ペリーが黒船とともに再来した際に日本に初めてもたらされた電信機。エンボスとは英語で浮き彫りにするという意味で、鋼針（こうしん）を紙テープに押し付け、モールス符号に応ずるくぼみをつける方式のもの。

《ブレゲ指字電信機》／19世紀、フランス製／重要文化財

我が国の電信事業で初めて使用された電信機。明治２（1869）年～同８（1875）年まで使われた。符号を用いず円盤の文字を指し示して通信を行う方式で、熟練した技術を必要とせず、初めて電信に携わる者でも扱いやすいものであった。

主な展示資料

№	資　料　名	制　作　年	作　者　等	備　　考	図版
1	駅伝箱				
2	駅鈴（模造）		香取秀真	隠岐玉若酢神社の模造	
3	駅鈴櫃				
4	土符	室町時代			
5	固関木契（左片、右片）	寛文３年正月 24 日		贈　美濃国　駅伝	●
6	東大寺文書	天永元年 11 月 15 日		往来軸あり	●
7	後北条氏伝馬文書	（天正 11 年）８月 28 日	幸田→自小田原前沢迄宿中	小田原北条氏伝馬朱印状	
8	後北条氏伝馬文書	（天正 11 年）11 月 17 日	里屋藤右衛門→小田原より倉内まで宿中	小田原北条氏伝馬朱印状	
9	丸子宿伝馬之事（今川氏伝馬文書）	永禄３年４月 24 日	（今川氏）→丸子宿中	今川氏伝馬朱印状、折紙	●
10	法然上人絵詞伝模本（千種風俗）			原本：知恩院所蔵	
11	法然上人絵詞伝模本（旅装の部）			原本：知恩院所蔵	
12	春日権現験記絵巻模本		山名義海（写）	原本：宮内庁所蔵	
13	後三年絵詞模本（陣中飛脚の部）			原本：東京国立博物館蔵	
14	室町時代の早馬				
15	早馬の図		中村洗石		
16	飛脚問屋中　定	天明３年壬寅 11 月６日	飛脚問屋中		
17	定飛脚問屋看板（山田屋八左衛門）				
18	定飛脚問屋看板（江戸屋仁三郎）				
19	〔飛脚屋印〕（村井）				●
20	〔飛脚屋印〕(仙墓大町 飛脚問屋　京彌)				●
21	〔飛脚屋印〕				●
22	〔飛脚屋印〕（山城宗）				●
23	〔飛脚屋印〕（日本橋平松町　京弥）				●
24	〔飛脚屋印〕（奥州 福嶋 京弥 定飛脚）				●
25	胴乱（枕つき）				
26	春慶塗　手形箱（京屋）				
27	先触板（尾州先触）				
28	碓氷川高札	文政 13 年９月			
29	駕籠（乗物）				
30	辻駕籠模型				
31	黒塗駕籠（乗物）模型				
32	印鑑	天保７年		田安御目付　京屋孫兵衛　田安裏御門入	
33	関札（島津淡路守舟宿）				
34	講札（伊勢両宮豊栄講）			伊勢両宮豊栄講　57 番　大阪講元 枡屋弥兵衛	
35	講札（浪速講）			浪速講　東屋和三郎	
36	御用箱	天保７年 11 月		御本丸　西御丸　御用　神田永富町 通四軒屋敷　四方太郎	
37	挟箱				
38	絵符（定飛脚）				
39	飛脚状包紙（早序）	８月 17 日	名古屋廣小路西江入遠々屋嘉蔵→信州飯田佐倉屋判右衛門		●
40	飛脚状（正六、代金請取に付）	12 月 16 日	信濃屋善吉・平兵衛→尾州宮宿材木町野口庄一郎		
41	飛脚状包紙（正六日限）	11 月６日	三石安法院内武田右膳→市辺村大西常右衛門		●
42	飛脚状包紙（金子入）	２月 15 日	三石安法院内武田右膳→城州綴喜郡市辺村大西常右衛門		●
43	早状札		大坂堂嶋早飛脚美濃屋		
44	置証文之事（飛脚屋証文）	元文２年８月 14 日	大坂平野町江戸屋惣五郎ほか 15 名→磯谷久右衛門殿		
45	往来手形之事	弘化２年１月 25 日	相州足柄上郡鴨沢村禅宗大泉寺→所々御関所御役人衆中・国々在々町々御役人中		
46	覚（鉄炮手形）	天明８年７月 21 日	堀左京亮→福嶋関所番衆中		●
47	〔関所手形〕（女手形）	元禄２年７月 18 日	大和→福嶋関所女改中		●
48	覚（箱根関所手形）	文化 12 年９月 11 日	中川悌之丞内大竹傳右衛門→相模国箱根御関所御当番衆中		
49	定（徳川氏伝馬朱印状）	慶長６年正月			
50	エレキテル　平賀家伝来	安永５年～同８年	平賀源内	重要文化財	●
51	袖がらみ				
52	尺時計			袋井宿資料	
53	湯呑茶碗				
54	庭訓往来（筆書）	慶長４年３月 14 日写畢	朝鮮参奉行竹渓鄭大福（書）		
55	庭訓往来　正保五年古板	正保５年刊			
56	冨士百撰　暁ノ不二　（模刻彩色）		北斎（画）		●
57	芝居絵町飛脚駒吉（錦絵）	安政６年２月	三代目豊国（画）・若狭屋与市（板元）		
58	紀州藩七里家着用の伊達半天着色写真背面				
59	徳川時代の早打図		Y. Yoshida		
60	隅田川花御所染（すみだがわはなごしょぞめ）（うちわ絵）	天保３年板	五渡亭国貞（画）・伊場屋仙三郎（板元）		
61	二更鐘妬念坂街（かねもようううらみのさかまち）	文政 11 年	二代目豊国（画）		
62	「日本交通図絵稿本」三度飛脚	大正７年	尾形月耕（画）		
63	文を読む娘と若衆	寛政期	初代豊国（画）・和泉屋市兵衛（板元）		

主な展示資料

No.	資　料　名	制　作　年	作　者　等	備　　考	図版
64	十二月の内　如月	弘化４～嘉永５年	三代豊国（画）・湊屋小兵衛（板元）		
65	ヨコ羽万ケん（横浜拳）	万延元年３月板	芳虎（画）、品川屋久助（板元）		
66	江戸の手紙・横浜の返事		（無款）		
67	児雷也豪傑譚話	嘉永５年７月	三代目豊国・湊屋小兵衛（板元）		
68	五十三次名所図会十一 はこね山中夜行の図	安政２年７月改	広重（画）		
69	東海道箱根	安政３年４月改	（一光斎）歌川芳盛（初代）		
70	東海道五拾三次之内　草津（名物立場）		広重（画）　保永堂（板元）		
71	東海道五拾三次之内　吉原（左富士）		広重（画）　保永堂（板元）		
72	東海道五拾三次之内　関（本陣早立）		広重（画）　保永堂（板元）		
73	東海道五十三次　新井（ちりめん絵）		北斎（画）		
74	伝神開手北斎道中画譜	文政 13 年以降刊	北斎		
75	東海道分間絵図	元禄３年孟春	菱川師宣（画）・遠近道印（作）、板木屋七郎兵衛（板元）		●
76	五街道　宿村大概帳　（日光）	天保～安政年代			●
77	東海道分間延絵図控	寛政 12 年～文化３年			
78	日光御山内見取絵図控	寛政 12 年～文化３年			●
79	箱根湯治場見取絵図控	寛政 12 年～文化３年			
80	大日本名所一覧		東都前広重喜斎立祥図画		
81	大日本道中独案内図	天保 12 年２月	洛士池田東籬悠翁（編図）・洛井上治兵衛（彫刻）		
82	（全国道中案内図）		浪華友鳴松旭（図）		
83	四国寺社名勝八十八番				
84	象頭山参詣道四国寺社名勝八十八番				
85	大井川連台渡の図				
86	安部川渡しの図（日本絵）				
87	箱根古関所之図				
88	大細見	文化２年			●
89	網代車（御所車）　模型				
90	（御東幸に付昼仕度先触）	（明治元年）９月 24 日	御東幸会計方→関宿田中屋利三郎		
91	（御東幸に付昼仕度先触）	（明治元年）10 月９日	御東幸会計方→箱根宿油屋三四郎		
92	エンボッシング・モールス電信機	嘉永７年		ペリー提督が幕府に献上、米国製、重要文化財	●
93	行在所看板	明治初年		袋井宿資料	
94	ペリー献上電信機実験当時の写生画	嘉永７年	樋畑翁輔（画）		
95	明治天皇御東行御供奉御行列之図		新井春岱（写）		
96	親子内親王御降下行列図	万延２年正月	掘川二条越後屋治兵衛・江戸日本橋一丁目須原屋茂兵衛外 13 名（板元）		
97	居留地坪数絵図				
98	函館分間絵図				
99	三国通覧記（全）（写本）	文政３年正月	林子平（原著）	「文政三庚辰年正月写之　遠藤光直蔵」	
100	国防地理書『三国通覧図説』の付図	天明５年	林子平		
101	下田港見取絵図				
102	下田表立会御用留	安政 4年3 月～同５年３月	御普請役郡司宰助		
103	網代車の図				
104	明治天皇御東行玉川船橋設絵図	明治元年 10 月			●
105	測量日記	文久元年～同３年	郡包教		
106	下田三崎船番所定控	午４月６日	久大和守→石野八兵衛・山本六右衛門		
107	ブレゲ指字電信機	19 世紀		ブレゲ製（フランス）、重要文化財	●
108	東海道画巻写真帖	江戸初期～中期			●

※会期中、展示替え有り

菱川師宣（画）《東海道分間絵図》（部分）／遠近道印（作）／元禄３（1690）年

《東海道画巻写真帖》江戸城本丸、天守閣／江戸初期～中期

「東海道絵巻」は、江戸城から京都の二条城までの東海道の風景を描いたもので、作者や制作時期など詳細は不明だが、描かれている内容から江戸時代中期の作といわれている。絵巻は、江戸幕府の要職を務めた秋元喬知の遺品として旧子爵の秋元家が代々所蔵していたが、大正 12（1923）年に起きた関東大震災で焼失している。当館では、明治時代末期に博物館陳列用としてこの絵巻を 76 枚の写真に収めており、平成 6（1994）年にデジタル画像処理による精密な修復を行い、その姿を現在によみがえらせた。

発行：郵政博物館（2017 年 4 月 11 日）